

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1992300028		
法人名	社会福祉法人 寿真会		
事業所名	グループホームらくえん倶楽部		
所在地	山梨県中央市極楽寺745番地1		
自己評価作成日	平成29年9月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年9月15日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺は自然いっぱい、のどかな田畑に囲まれ、中庭では季節の野菜を作り食卓へ運び、天気の良い日にはお茶をのんびりと飲みながらカラオケをしています。毎月第二土曜日に開催している”オレンジカフェらくえん”も順調に定着してきています。毎月地域のボランティアの方々にも協力してもらい、入居者様や地域からの参加者様をもてなして頂いています。

併設されている特別養護老人ホームもあるため、医療面ではオンコール体制もあり、急変時には主治医との連携が速やかに行っている。栄養面でも管理栄養士がいる為、献立から嚥下咀嚼等の相談も出来ているので、安心して暮らす事が出来ている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の北側に環状道路が走り、市街地への交通が便利である。当該施設は近い将来リニアの駅が設置され近代的都市となる近辺に位置する。同一敷地内には特別養護老人ホームが併設され医療面や栄養管理、口腔ケア等の支援体制がとれている。周辺には田園風景が広がっており、静かで落ち着いた雰囲気の中で利用者は生活が出来ている。地域の認知症支援活動の「オレンジカフェらくえん」も定着して盛況に活動している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 花梨 )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を玄関と共同生活室に貼り、ユニットミーティングで確認している。	基本理念は玄関と共同生活室に掲示されており、職員や来訪者にとっても見やすい位置に掲示してある。毎月第2月曜日に法人全体集会で唱和している。また、ユニットのミーティングでも基本理念について職員間で共有し実践できるように意識づけしている。	グループホーム設立10年目に入っており、法人の基本理念をふまえながら、現場に即したグループホーム独自の理念を作成し、より身近な事業所理念となることを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りには参加し、定期的にボランティアさんにも訪問して頂いている。	グループホームも地区住民として、回覧板を回しながら区の行事として河川清掃、防災訓練、地域の祭りへ参加をして交流を行っている。ボランティアの方が耕作している田畑が近くにあり、散歩に出かけた際、会話を楽しんでいる。認知症カフェにボランティアの参加もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェを利用し、様々なイベントにも出向き認知症の理解や支援方法を発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催するようになり、今まで以上に情報交換できるようになってきた。	併設の特別養護老人ホームと共に、2ヶ月ごとに開催している。市の担当や家族、民生委員、地域住民代表、施設側から施設長はじめ管理者、介護支援専門員等で運営状況、行事内容、利用者状況等の実践報告や、生活の様子をスライドで伝えグループホームの事業の啓発に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	オレンジカフェや認知症検討会をととし、地域包括との連携が密になってきている。	市の取組みとして認知症カフェを「オレンジカフェ」とし、地域の認知症支援活動を開催して市との繋がりを持っている。また、認知症の人を支える家族の会の要望を聞き、市や地域の関係者と情報交換を行っている。地域包括支援センターが地域の認知症研修を開催しており、当事業所を紹介し、見学、相談に応じ交流を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一度、施設内研修に身体拘束を取り入れ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	併設の特別養護老人ホームと年1回、身体拘束防止についての研修を行っている。身体拘束について具体的な内容を検討し、実践につなげている。利用者の徘徊による危険回避も踏まえてケアの在り方についての取組みを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	山梨県グループホーム協会主催で勉強会を開き、学んだことは職員に伝え虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止同様に勉強会に参加し、施設内研修においても取り入れ活用できるよう努力している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を丁寧に説明し、納得して頂いている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年二回の家族会を開催し、意見箱も設置して意見・要望を聞き運営に反映できるよう努力している。	家族や来訪者に対しての意見箱が設置されている。また、年2回の家族会で家族の要望や意見を聞いて運営に反映している。個人的な要望が多く、外部サービスを導入して支援している。またボランティアの受け入れやリハビリ等の導入に対しても事業所の内容の充実を図るための提案として受け入れている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングを利用し意見や要望を聞いている。個人面談も必要に応じ行っている。	ユニットミーティングを月1回実施して意見交換を行っている。また、必要に応じて管理者との個人面談を行い、提案された意見について運営やグループホームのサービス向上のために、検討を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回の賞与があり、昇給もある。 長年勤務者には五年十年と表彰も行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修への参加、外部研修への促進、資格取得者への報奨金など資質の向上に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修・勉強会に積極的に参加できるよう努力している。 寿真会としてもスポーツ交流を行っている。			
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族が、今何を困っているのか傾聴し、現状の理解と説明を行い安心した生活が築けるよう努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日々生活していく中で、家族との関係作りは難しい点が多いが、面会に来られた際にはどんな些細なことでも傾聴し信頼が得られるよう努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々なニーズの中から、今何が必要なのか傾聴し、話し合いの場を設けて見極め提供に繋げている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やお茶を一緒に摂る事により、コミュニケーションを図っている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 花梨 )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会時には必ず近況報告を行い、施設行事にも参加して 頂いたりしながら、共に支えていけるように努力している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで生活してきた場所を巡ったり、いつでも馴染みの関 係者が来苑できるような環境づくりをしている。 家族が馴染みの理髪店に連れて行ったり、受診の帰りに 買い物をしてきたりと関係が続けられるよう家族と共に支援 している。	入所前から利用していたリハビリを受入れている。また馴染 みの理髪店を利用したり、以前利用していた店に買い物 に行く、地域のお祭りに参加する等、家族・地域との関係が 継続できるように努めている。家族の訪問を受けて繋がりが 継続できるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	職員が中に入る事で仲介し、口論にならないよう支援して いる。 カラオケは関わり合える一番のツールになっている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も同じ地域で生活している為、会う機会も あり、必要があればいつでも相談対応が出来るよう体制は 整えている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	介護支援専門員が計画書を作成する段階で、本人の意 向・家族の意向は聞いているが、日々の生活の中から意向 が聞けない入居者様等は会話の中から見出している。	日常生活の中で入浴や食事の時に本人の思いや意向を聞 くようにしている。本人が希望した食べ物等は極力叶えるよ うに、家族からも情報を得て本人本位で生活が出来るよう な支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居時に生活歴を書いて頂いたり、訪問調査時に聞き取り を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	24時間シートを利用し、ケアカンファ等で情報共有し現状 把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	施設においてより良く暮らしていくために、モニタリング・ケア カンファ・担当者会議等を行い、担当者がプランの評価を 行って意見や要望を出し、介護計画書に反映し作成してい る。	職員が利用者の担当制にとなっており、毎月モニタリングを 行い、関係者と介護支援専門員と共にモニタリングを踏ま え、実情に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	月に一度のミーティングで個々のカンファを行ったり、介護 日誌とPCへの記録を職員同士が共有し支援し、介護計画 書にも反映している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他部署他職種との連携を図り、随時臨機応変に対応できるよう努力し取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんが関わる事により馴染みの関係が築け、楽しい時間が少しでも持てるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族付き添いのもと受診しているが、9人中4名は往診対象となり、二週間に一度の定期往診を受けている。5名は月に一度の受診に家族と出かけている。主治医の選択は、入居時に説明し家族同意のもと決定している。	月1回、グループホームの嘱託医の往診4名、通院4名、入所前からの主治医に1名が通院している。往診時は職員が立ち会い連携がとれている。家族が付き添い通院している場合は受診後報告を受け把握されている。また、日常生活では必要時に併設の特別養護老人ホームの看護師に相談して対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養が併設であるため、常時看護師が在中している。GHも特養と同様に報告・連絡・相談がいつでも出来ている。急変時も主治医との連携がスムーズに出来ている。夜間もオンコール体制が整えてある。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医が近隣にいる為、適切な判断で入退院が出来ている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明し、重度化した場合や終末期については早く主治医と連携を取り、他職種とも連携を図りチームで支援に取り組んでいる。	入所時の本人・家族等への説明の中で、看取りに対する要望を十分聞くようになっている。重度化した場合や終末期の対応については、かかりつけ医との連携や併設の特別養護老人ホームの看護師や他職種との連携で状況の共有ができており、チームケアの取組体制はできている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアルに従い対応している。個々に酸素ボンベなどは使い方を確認している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で避難訓練を年二回以上行っている。	6月消防署の立会いで訓練実施、9月施設内研修として防災訓練実施、11月防災委員が防災センター研修に参加して職員に周知している。近隣に河川があるため、水害対策訓練を行って1階の利用者を2階への誘導訓練を行った。また地震、火災、水害に対する避難マニュアルを作成し職員間で共有している	夜間時の災害発生時や介護職員が一人体制の時の利用者を避難誘導する為の対応方法を職員間で検討し、利用者個々に合った支援を職員が身につけることを期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念にもあるように、尊厳を守る事の大切さを常に重視し、言葉掛けには十分注意して支援している。認知症を良く理解し、常にやさしく笑顔で接する事が出来るように対応を心掛けている。	トイレ介助、入浴時には特にプライバシーが守られるように配慮している。居室のドアを開放されたままの時には、それとなく閉めている。また、声掛けの仕方等工夫して、心のケアを心掛け笑顔で接するように職員間で気配りをしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動を起こす時には、必ず今から何をするのか説明し声掛けを行っている。選択する事がある時には必ず本人に決定して貰っている。決定出来ない入居者様には日頃の信頼関係の中から職員が選択する場面もある。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、その人らしく過ごせる様支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を伺い、季節に合った衣類を選択して頂いている。男性は朝食前に髭そりを行って頂き整容に努めている。月に二度の美容師の来苑を利用しながら身だしなみには十分注意し支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を一緒に出来る入居者様がいない為、下ごしらえや配膳などを手伝って貰い、出来る人が出来る事をして食事を楽しんでいる。食事時の職員との会話も楽しんでいる。	併設の特別養護老人ホームの管理栄養士が献立をたてている。高齢で重度の利用者が多く調理出来る人がいないため、職員が調理している。配膳やかたづけ等は利用者が手伝うことがある。職員と一緒に食事しているので、コミュニケーションの場になって細かい支援もできている。食事介助に訪れている家族もいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を特養の管理栄養士が作成しているため、バランス良い食事が出来ている。咀嚼嚥下が困難になると相談し臨機応変に対応できている。水分補給も10時15時には必ず摂って貰い、間には入浴後だったり本人の訴えに対応し提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は個々に合った口腔ケアを行っている。義歯の方は、就寝時に必ず職員が外れている事の確認を行い、洗浄剤を入れ保管まで確認している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間オムツ対応の方でも、日中はリハビリパンツや布パンツで対応している。オムツの方でも時間でトイレ誘導を行い排泄を促している。	昼夜オムツの利用者が一人、他の利用者は日中トイレ誘導で排泄が出来ている。布パンツの使用で排泄が自立出来ている人もいるが、排泄のチェックシートを参考に、声掛け等の支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	三日排便が無い時には、主治医の指示で排便コントロールしている。家族が持参されている、ヤクルトやヨーグルト、便秘に効くお茶等を提供し予防している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はいつでも入れるような環境である。週に二回は入浴出来るように心掛け、声掛けを行っている。	家庭生活に近づけられるように、利用者の希望を確認しながら一日2、3名介助浴を実施している。中には職員二名で介助する利用者もいる。入浴後ワセリン、ローションをつける、個人の好みで化粧水、ファンデーションを塗る等の支援もしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は本人の意向や体調に合わせ臥床して頂いている。夜間は眠剤を服用し安眠されている入居者様もいる。不穩で落ち着かない入居者様には傾聴し寄り添う事で安心して頂き休息に繋げている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニットに服薬説明書があるため、いつでも確認が出来る状態である。服用も指差し確認を行い飲み込みまで確認している。配薬も看護と介護二人で確認しながら行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの意向を取り入れ、カラオケ・ドライブ・施設周辺の散歩・家庭菜園の収穫等様々な楽しみを提供できるよう努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎朝中庭を歩いている入居者様もいるが、職員が付き添い散歩しなくてはならない方が多いため職員の配置によっては毎日希望に沿う事が出来ない状況である。しかし、家族の協力で散歩に出かけている入居者様もいる。ドライブも個別で出掛けられるよう計画を立てている。	利用者の希望を聞いて、個別に散歩や買い物、ドライブ等に出掛けている。また、家族と一緒に散歩に出かけたり、ドライブに出掛ける事もある。近くにボランティアの方の畑があり、出かけて交流することを楽しみにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金規定に沿って外出時には使用する事もある。本人が常に持っている方もいるが、管理も出来ていてトラブルはない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、都度対応出来ている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が季節の花を提供してくれたり、外出時の記念写真を貼ったり、イベントごとに飾り付けをして居心地の良い季節感のある空間を作るように努力している。	玄関には、趣味の良い壁飾りが展示されていたり、施設の概要が分かりやすい場に掲示されている。また、「オレンジカフェ」のポスターや写真が展示され、季節の花も飾られて、感じの良いスペースになっている。共同生活室、浴室、トイレは陽射しが入り明るい構造になっている。トイレの空間は車椅子の利用しやすいスペースになっている。中庭では猫が利用者をなごませている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの前にソファを設置する事で、気の合う入居者様同士で話をしたりTV観戦をしている。共有空間であっても、個々に新聞を読んだり歌詞本を見ていたり、思い思いに過ごしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、今まで使っていた家具類を持ってきて頂いたり、箸や茶碗・湯呑みも使い慣れた物を使用してもらうことにより居心地の良い空間で心地よく生活して頂けるように支援している。	入所時に利用者や家族と相談し、利用者が自宅で使い、慣れ親しんでいた家具を使用している。日常生活でも身近で使い慣れた物品が置かれ、居室のスペースは居心地よく過ごせる工夫がされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	併設の特養があるため、自由行動のある入居者様は個々に確認してもらい顔を知って貰い、レク等で顔馴染みになっているのでユニットを出てしまっても安全に安心して生活出来ている。			